



ASLAN THEATRICALS

ドキコメタタリ映画・トークショー・コンサート

BEING ERIKO

ヨーロッパが見つけた日本中心

2023.3.4 sat 14:00-

会場：神戸新聞 松方ホール

BEING ERIKO

神戸に凱旋!

(ドキュメンタリー映画)

(トークショー)

(コンサート)

特別 180分

繊細かつ大胆、かつ赤裸々に自分自身を解放しようとする 世界的ピアニスト・前衛パフォーマー、**牧村英里子**の挑戦

デンマーク、ドイツ、ポーランド、そして日本——。ドキュメンタリーのカメラは、欧州を中心に活躍する牧村英里子のすべてを追った。芸術的才能を伸ばすための容赦ない鍛錬、社会的常識を超えた挑戦、人間の生々しい感情に満ちたステージ、引き込まれていく観客、自由をつかむための生き様、彼女を支える仲間たち。ひたむきに表現を極めていく表現者の内なる葛藤。あまりに情熱的なピアノの旋律が、映像に溶け合いながら、幾つものメッセージを奏でていく。生まれ故郷、兵庫県で行われたコンサートパフォーマンスや、明石公園の満開の桜、JRの車窓から見える神戸の街並み、東経135度の日本標準時子午線にある明石市立天文科学館でのモノローグは、まさに彼女の原点を浮かび上がらせる。



牧村英里子

コンサートピアニスト
ステージパフォーマー



兵庫県立長田高等学校出身。京都市立芸術大学音楽学部ピアノ科首席卒業。京都音楽学部賞、京都音楽協会賞受賞。同大学大学院にて修士課程修了。ベルリン芸術大学に入学。さらに、ハノーファー音楽大学のソクララスにて研鑽を積む。第11回国際室内楽コンクール(ポーランド)で総合優勝。また、第2回ヨーロッパ室内楽コンクール(ドイツ)で優勝。合わせて聴衆賞受賞。2021年、コペンハーゲンの劇場、Sort/Hvidのシーズンオープニングアーティストに選出され「Dies Irae」を発表。またストックホルムにて「Eriko - A Woman Who Can't Say No」を初演。2022年、スウェーデン文化財団の助成を受け、国立文化劇場にて主役に抜擢される。ポー/ラモーナの親友。



ポー・ハーゲン・クラウゼン ラモーナ・マツチョ(特別ゲスト)

パフォーマー、歌手、人形劇マスター
アニメーション監督

1999年、カンヌ国際映画祭にてアニメーション映画「Little Big Dog」で受賞。20年以上にわたり、ドラッグクイーン「ラモーナ・マツチョ」として数多くの舞台に出演。2016年、コペンハーゲン・ステージで自伝的なミュージカルパフォーマンス「transalvation」を公演。影劇、パペット、アニメーションの技術を駆使し、ステージパフォーマーとして自身の物語を表現し、各メディアに絶賛された。また、シンガーとしてのラモーナは、表現豊かな歌声で聴衆を魅了。8年にわたり、子供たちや青少年合唱団と一緒に教会とコラボレーションしながら活動を続けている。この活動が評価され、2020年、デンマークのLGBTQ文化賞にノミネートされた。



ドキュメンタリーフィルム『BEING ERIKO』 デンマーク・コペンハーゲン国際ドキュメンタリー映画祭2020 「ノルディックドキュメンタリー賞」(大賞) 受賞作品

2020年製作 / デンマーク / 73分

監督: ヤニック・スプリズポエル 製作: サラ・ストックマン 撮影監督: ヘンリック・ボーン・イブセン 音響: モーテン・クロウ・ヘルゲン

編集: トーケル・イェルヴ 共同製作: ホーヴァド・ヴェットランド・ゴッセ 配給: アジアンドキュメンタリーズ

BEING ERIKO



『BEING ERIKO ヨーロッパが見つけた、日本の心』

〔日時〕 3月4日(土) 14:00開演(13:30開場)

〔会場〕 神戸新聞 松方ホール(神戸情報文化ビル4階) JR神戸駅から徒歩10分

〔チケット〕 大人: 4,000円 / 学生: 1,000円(全席自由)

〔チケット申込み・お問合せ〕

mail: 77deadlysins77@gmail.com / tel: 080-3862-4400 (Eriko Makimura & co.)

〔主催〕 株式会社アジアンドキュメンタリーズ、BEING ERIKO 企画委員会 〔後援〕 兵庫県、神戸新聞社
〔協賛〕 神戸いのちの電話 〔協力〕 兵庫県漁業協同組合連合会、(公財)明石文化国際創生財団、(一社)明石観光協会
明石市立天文科学館、岩屋神社、(公財)兵庫県園芸・公園協会、兵庫県立明石公園、あかし玉子焼ひろめ隊

